

令和4年度自己評価結果

社会福祉法人 和愛福祉会
わかかこども園

1, 本園の教育・保育目標

【教育・保育理念】

生きる力の基礎を培い、豊かな心を育てます。

【教育・保育方針】

発達過程に応じた教育・保育

☆一人一人の子どもに寄り添い、その子らしさを大切にします。

☆一人一人の発達や個性に応じて、教育・保育を進めます。

子どもが主体・自己を発揮できる教育・保育

☆自発的、意欲的に関われる環境を構成し、子どもが自ら選ぶことで、子どもが持っている力を伸ばしていきます。

☆生活や遊びの中で、子どもたちが生き生きと活動することにより、学びが生まれ、生きる力を高めていきます。

専門性を有する職員による教育・保育

☆「和顔愛語」の精神で、和やかな心情と愛情豊かな言葉をもって接します。

家庭・地域との連携

☆保護者や地域の方々と一緒に輪になって、共に子育てをしていきます。

☆子どもたちの成長をともに喜び合える、地域に根差したこども園を目指します。

2, 年齢別教育・保育目標

【0歳児】

清潔で安全な環境の中で安心して個々の生活リズムを整えながらゆったりと過ごす。

【1歳児】

自分の思いを十分に受けとめてもらい、安定した情緒の中で安心して過ごす。

【2歳児】

保育教諭との安定した関わりの中で、基本的な生活習慣を身につけ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。

【3歳児】

保育教諭や友だちと遊ぶ中で、自分の思いを言葉や行動で表現し、かかわることを楽しむ。

【4歳児】

自分でできる事に意欲や喜びを持ちながら、身近な人とのかかわりを深めていく。

【5歳児】

友だちと協力したり、考えたりしながら様々なことに挑戦し、知識・能力・自信を獲得していく。

3. 評価項目の取り組み状況

評価項目	自己評価	取組み状況
1. 園の基本姿勢について	○	<p>理念や教育、保育目標は年度ごとに職員に書類で渡し話し合い、共通理解を図っている。保護者には入園のしおり、ホームページ、園だよりで知らせているが、活字だけでは伝わりにくい点もあるため、教育、玄関にデジタルホワイトボードを設置して日々の様子を写真や動画で知らせることを始めた。子どもを一人の人間として尊厳をもって関わることの重要性について理解し、気持ちにゆとりをもって接することを確認しあった。</p>
2. 教育・保育の内容及び目標	○	<p>3年度末で職員数が減ってしまったが育児休業だった中堅正職員が戻り、新規採用者も良い職員に恵まれたことで、教育・保育の質を保つことが出来たように思う。</p> <p>コロナ禍の影響はあったものの、コロナ対策一辺倒にならず、随所で工夫が見られたのは良かった。</p>
3. 健康及び安全	◎	<p>4月から全保育室にパソコンを配備し、各クラスで登園の状況がリアルタイムで把握することが出来るようになり、また欠席や遅刻の電話連絡も連絡アプリに変わったことで激減したことで、より余裕をもって園児の登園確認が出来るようになった。</p> <p>年間を通じて大きなコロナ感染は無かったが、冬にインフルエンザが大流行した。幸いどの感染症も重症化した園児はいなかった。</p> <p>初めて医療的ケア児を受け入れたが、専任の看護師、担任の保育者の協力の下、実年齢のクラスで過ごすことが出来、年度後半にはチューブを外せるまでになった。</p>
4. 子育ての支援・地域との連携	○	<p>保護者の登園準備物への負担を減らすため、紙おむつ、お尻ふき、おむつ処理、紙おしぼり、エプロンを5点セットにしたサブスクリプションサービスを10月から実施した。参加率を100%にする工夫を時間をかけて考えた。これにより、保護者、保育者ともに準備や片付けに要する時間を削減することが出来、子どもに接する時間を増やすことが出来た。</p> <p>保育参加（保育教諭体験）では、保護者が園での様子がわかるし、コロナ禍でもいろいろ行事があっ</p>

		<p>て思い出になるので嬉しいと、行事後のアンケートで綴られた。</p> <p>昨年に続き、地域の活動や行事がすべて中止となり、地域と連携する活動は出来なかった。</p>
5. 園独自の取り組み	◎	<p>今年度は不適切保育ということが社会的に問題となったこともあり、「保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト」で各自が確認し、職員会議でも話し合いを持った。</p>

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<p>幼保連携型認定こども園としての教育・保育の推進及び教職員の資質向上</p>	<p>保育園として開園してから10年が経ち、認定こども園としても3年間の実績を積んだ。社会的には不適切保育と言われる事象が顕在化し、集団生活における一人ひとりの保育の難しさが露呈したと言える。当園では開園以来、閉鎖的、保守的にならないよう取り組んできたが、コロナ禍で外部との繋がりを持つてなくなったことで、それが楽だという意識がまん延しているように感じる。まずはその意識を払拭しなければならない。</p> <p>業務の効率化を進めることが、外部との接触や地域活動など「面倒くさい」ということの排除にならないよう気を付ける必要がある。</p> <p>コロナ禍で失われた人と人との繋がり大切さを取り戻すことが職員の資質向上の第一歩だと考え研修等に取り組む。</p>

◎…十分理解できている（十分出来ている）

○…理解している（出来ている）

▲…ふつう

×…努力が必要（出来ていない）

以上の通り報告します。

令和5年3月31日
 幼保連携型認定こども園
 わっかこども園